水のひろば
Water Square

水のふるさと がんばらまいか王滝村

※「がんばらまいか」とは、木曽地域の方言で「がんばろう」の意味です。

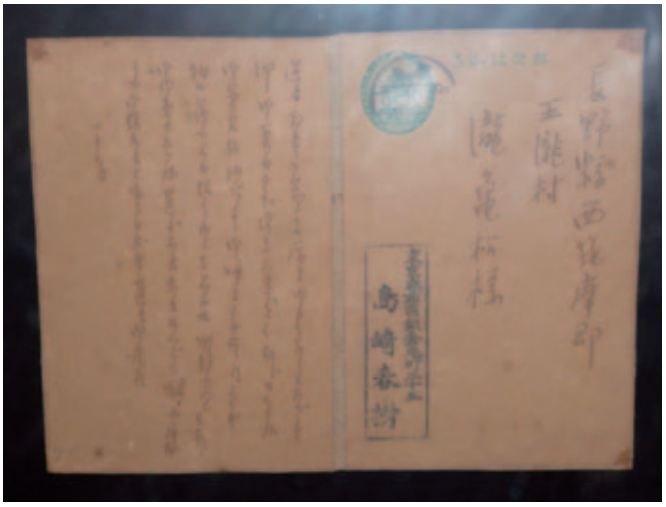
おんたけ湖（牧尾ダム貯水池）

昨年９月に発生した御嶽山噴火によりお亡くなりになられた方へお悔やみを申し上げますとともに、被災した方々にお見舞い申し上げます。

また、長野県王滝村ならびに関係町村の一刻も早い復興を心からお祈り申し上げます。

1　昭和の文豪島崎藤村の愛した村

「王滝は殊に夜の感じが深い。暗い谷底の方に燈火の泄（もら）れる民家、川の流れを中心に湧き立つ夜の靄（もや）、すべてがひっそりしていた。・・・（中略）・・・、この静かな森林地帯へやって来たことも、半蔵をよろこばせた」。昭和の文豪島崎藤村が「夜明け前」の中で主人公青山半蔵の心の描写を借りて王滝村の感想を述べた一文です。藤村自身この作品を著すにあたって王滝村を何度か訪れています。その時逗留した旅館には、藤村から送られたお礼状が展示してあります。



島崎藤村（春樹）からのお礼状

2　観光と水源の村

王滝村は長野県木曽郡の西端部に位置し、村の97%は山林原野です。昔は良質な木材の産地として林業を主な生業として発展するとともに、信仰の山・御嶽山（おんたけさん）への入り口として神職・行者・信者らで賑わう村でした。戦後は林業に替わって、スキー場を中心とした観光業が村の基幹産業となりました。また、昭和36年には年間降雨量約2,400mmという木曽の山々に降る恵みの雨を貯めるおんたけ湖（牧尾ダム貯水池、水資源機構管理）が完成し、観光の村・水のふるさとの村となりました。

しかし、昨年９月27日に御嶽山が突然噴火、大きな被害をもたらしました。人口およそ900人、世帯数400あまりの村が日本中の注目を浴びることになったのです。

3　冬の王滝村

この噴火で村の観光は大きな打撃をうけています。冬の観光の目玉である「おんたけ2240スキー場」は、噴火による入山規制区域内にあり12月５日のスキー場開きを断念しました。ただ、村としては入山規制が解除されれば、シーズン途中でもオープンさせる予定です。

王滝村にはスキー以外にも観光の目玉はたくさんあります。冬場の楽しみである温泉も豊富に湧いています。村内には２つの源泉があり、その１つ「王滝の湯」はナトリウム・カルシウム炭酸水素塩温泉で源泉かけ流しのお湯が楽しめます。また、王滝川上流には昭和59年の長野県西部地震で王滝川がせき止められてできた自然湖があります。冬以外の季節でも神秘的な趣をただよわせ秘境を思わせる湖ですが、冬にはこれが全面結氷し、その幻想的な風景は日常とは別世界で一見の価値ありです。

王滝の湯 入り口（通常営業 土日・祝日：大人500円、小人200円、幼児無料）

長野県西部地震でできた神秘的な天然の湖「自然湖」。夏はカヌーツーリングが楽しめます。

4　素朴な味わいを大切にする村

味覚の楽しみとして、秋に収穫した“ひだみ”が味わえます。“ひだみ”とはこの地方の方言でどんぐりのことです。王滝村ではひだみを保存食・非常食としてきました。これを郷土食として売り出そうという試みです。ひだみ饅頭、ひだみサブレ、ひだみぱん等が考案されており、他にはないどんぐりの素朴な味わいが楽しめます。また、今年はひだみコーヒーが登場しました。もともと渋みのあるどんぐりの特性を生かしたカフェインを含まないコーヒーです。色は普通のコーヒーとほぼ同じですが、味はほうじ茶に似たかぐわしさが特徴です。

それから、冬を代表する味覚として“すんき”があります。木曽のかぶ菜を塩分を一切使わず、乳酸菌だけで発酵させた漬け物です。少しすっぱいですがそれが後を引くおいしさです。そのまま食べるだけでなく、すんきそば、すんき汁、すんきの油炒め等、食べ方も豊富な自然食品で、塩分の気になる方にはお薦めのお漬け物です。

そして、春から初夏にかけては朴葉（ほおば）巻きが楽しめます。小豆のあんが入った米粉のお餅を朴の葉で包んで蒸したお菓子です。小豆のあんのほのかな甘みと朴の葉の香りがしみこんだお餅がマッチした木曽特産の逸品です。

どんぐりで作った“ひだみコーヒー”（左）と“ひだみサブレ”（右）

5　今の王滝村を訪ねて

今、王滝村を訪ねると以前と変わらない風景の王滝村があります。集落地域では火山灰も全く見られません。しかし、村の方と話をすると、「御嶽山噴火後、風評被害のようなものを感じる。この誤解は解いていきたい。」と仰ります。観光が村の基幹産業なだけに、風評被害は大きな問題です。その一方で、「これまでも上下流の絆で下流の方にはいろいろ助けられてきたし、今回も助けてもらっており、非常にありがたく思っている。この良好な関係を今後も続けて行きたい。」と言っていただきました。今、下流から水のふるさと王滝村に支援できることを考えたいと思います。（中部支社）